

せりよさ

高

生命の尊厳を学ぶ

性教育講演会

7月7日(火)、沖高振興事業の一環として、本校体育館にて、講師に神戸女子大学教授・鹿児島県助産師会会長でいらつしやる下敷領須美子さんをお迎えし、「大切な人と出会い、豊かな人生を送るために」という演題で性教育講演会を行った。暑い中ではあったが、数名の保護者の方々も来校して講演をお聞きになった。



自分も相手も大切に

多面的な性、生命・生活・人生という意味をもつ「LIFE」について考え、性感染症や出会い系サイトの被害、また本校職員による寸劇を交えた「デートDV」などの例を紹介し、人権が守られていない関係性や妊娠について話を聞いた。その後、人との望ましい関係を築いていくためのコミュニケーションのあり方として「YOU」メッセージで



35億年前の生物誕生から続いてきた生命のつながり、そのつながりを受けた自分の生命を大切にすることを生徒たちに呼びかけられた。

「高校生は自分も含めて異性を意識する年頃で、自分の気持ちの伝え方や気持ちのコントロールが難しいので、今日教えていただいた『I』メッセージを使って、人と関わりたい」
 「私はどうやって女として生まれてきたか考えたこともありませんでした。何代もさかのぼり、一人でも亡くなっていたら、今の自分はいなかったのだと思うと、より一層命があることに感謝しなければ

自分の可能性を広げよう ～進路ガイダンス～

7月2日(木)、株式会社キッズコーポレーション主催のもと、進路ガイダンスを実施した。1年生は講演会「キミの貢献」で社会において必要とされるコミュニケーション能力を身に付けるために何をすべきかを学び、2・3年生は「マナー指導」で面接試験の練習を行った。その後、「模擬面接」では就職希望者を対象に就職試験の面接を体験して改善点の指導を受け、進学希望者は「進路講演会」で大学入試のスケジュールや進路決定に向けての心構えなどについて学んだ。「学校説明会」には27校の大学・短大・専門学校が参加があり、生徒はその中から最大3校の説明を聞くことができた。実際に話を聞いた事で進路希望を固めた生徒がいた一方で、希望する分野ではない学校の説明を聞いた生徒もあつたが、視野や可能性を広げるいいきっかけになったようだ。「受験生としての自覚が出てきた」「自分が向いている分野が分かった」「医療や福祉分野の資格を目指したい」などの感想が多く聞かれ、友人同士で情報交換をする姿も見られた。進路ガイダンス以降、進路資料室へ情報収集に訪れる生徒も増えている。今回のガイダンスをきっかけに、進路意識が高まり、自分の将来と向き合う生徒が増えることを期待している。



学校関係者評価委員会 沖高教育振興協議会

6月22日、9名の有識者を招き、本校にて本年度初の会議が開催された。
 学校関係者評価委員会では、本年度の学校経営の4つの重点項目と学校評価の説明がなされた。委員からは、評価項目の工夫等の意見が出された。沖高教育振興協議会では、和泊・知名両町からの計200万円の振興基金の活用計画を示した。前年度の事業報告後、

沖永良部の子どもたちのために 小中高連絡協議会

7月3日(金)、小中高連絡協議会が本校で開催された。島内の小・中学校の先生方が来校され、授業参観の後、本校職員も交えての様々な協議に臨んだ。

協議においては、高校入試に関する本校の現状説明や、進路指導、生徒指導に関わる事柄について説明がなされた。特に生徒指導については、携帯電話の使用状況に関する質疑がなされた。その後、各中学校と1学年担任との情報交換が行われた。



授業参観や協議会、連絡会を通して、本校の生徒のみならず、沖永良部島の子どもの現状や成長の様子、今後の課題等を共通認識することができた。これからの島や日本の未来を担う子どもたちの教育に資する協議会としていきたい。

今年度の活用計画が説明された。前年度の項目に、新たに「イングリッシュトレイニングキャンプ」の派遣事業が追加された。委員から「学力向上に更に力を入れ、高い進路実現」「島全体の学力向上のために、沖高の取り組みが有り難い」などの意見が出された。両町からの支援に深く感謝し、有効活用したい。

★8月行事予定★

- 1 (土) 河合マーク(3普) ① 知名町夏祭り補導①
- 2 (日) 河合マーク(3普) ② 知名町夏祭り補導② センター試験対策夏合宿 (8/5まで)
- 4 (火) 夏トライクレイドアップゼミ (8/6まで 鶴丸高校)
- 10 (月) 安全点検日
イングリッシュ
トレーニングキャンプ (8/12まで 鹿児島市青少年 研修センター)
- 17 (月) 交通安全の日
- 20 (木) 夏季后期課外開始(全校内選考会)
- 22 (土) 数学検定
- 24 (月) 中学生体験入学
第10回沖高同教夏季学習会・知名町人権同和教育講演会(あしひの郷)
- 25 (火) 夏季后期課外終了
- 26 (水) 実力考查①
- 27 (木) 実力考查②
大学出前講義

第63回 体育祭

期日：平成27年9月6日(日)
 8:45 入場行進スタート
 8:55 開会式
 場所：沖永良部高校第1グラウンド



劇的な熱戦!

クリスマスマッチ

7月14日(火)、全校生徒による1学期クラスマッチが行われた。男子はソフトボール・サッカー、女子はバレーボールを行い、各競技とも、熱戦が繰り広げられた。

午前中に行われたソフトボールでは、どのチームも声を掛け合いながら懸命に白球を追いかけて、好プレーが続出する度にグラウンドが大きな歓声に包まれた。中には、先生方もクラスに加わり、生徒と共に汗を流す一幕もあった。また午後からのサッカーでは、試合前に円陣を組んで士気を高める光景が至るところでうかがえ、プレーにかける熱い思いに満ち溢れていた。さらに決勝戦においては、勝敗がつかず、13人目にまで及ぶPK戦となり、大変な盛り上がりを見せた。

一方、女子のバレーボールも白熱した内容となった。9クラス20チームが参加し、経歴豊かな3年生の圧勝かと思



ソフト&サッカーW優勝!



PK戦を制した3の1

れからの学校生活においても、奮戦に声を上げて応援し、クラスや学年の垣根をこえて親睦、そして団結力を深め合ったクラスマッチとなった。これからの学校生活においても、

1日を通して、皆が級友の奮戦に声を上げて応援し、クラスや学年の垣根をこえて親睦、そして団結力を深め合ったクラスマッチとなった。これからの学校生活においても、



バレー優勝 3の2

「なぜ学ぶのか?」~1年生LHR~

夏課外1日目、1年生普通科の生徒を対象に「なぜ学ぶのか?」を考えるLHRが実施された。初めに学ぶ意義を「進学や就職のため」「大切だから」と考えていた1年生だったが、大人の考える勉強の意義や実際に働いている人たちの文章を読んだ後は、「仕事でいろいろな教科の力を使うことになるから」「自分の夢や選択肢を広げるため」と具体的に学ぶ意義を考えるようになっていった。そして、学ぶ意義に関する5つの言葉に触れた後は、「仕事をしっかりすることで日々を充実したものにしたいから」「自分のためだけでなく、人のためになることを学ぶため」「世の中を変えるため」といった考え方もつまみでになっていた。



その後はグループを作り、美容師や弁護士、ホテルスタッフなどの仕事と、学校で学んでいる教科の関係を考えもらった。美容師と理科との関係を考えたグループからは、「利用する製品に含まれる成分が安全かどうかを見極めるためにも理科が必要」という意見が出された。一方、ホテルスタッフに必要な教科の力を考えたグループからは、「国語や英語がお客様とのコミュニケーションには必要」「ホテル内の装飾やHP・広告の作成には美術」などの意見が挙げられた。一つの仕事を成し遂げようとしたときに、様々な教科の力が必要とされることが理解できたようである。

最後に改めて、自分が学んでいることを、誰のためにどう役立てることができるか、どう役立てたいかを尋ねた。生徒からは「コミュニケーションや地域に役立てることができる」「将来働いたときに、いろいろなことに役立てられる」「できればたくさんの場面で、学んだことを十分に役立てたい」「だれかが楽しんでくれる仕事をしたい」という答えが聞かれた。

LHR後、「勉強についてこんなに深く考えたことはなかった」「学べることはすごく幸せなことだと思った」「勉強は自分のためだけにするのはない」「関係ないと思っていたけど、今学んでいることが将来役に立つことがわかった」という感想が聞かれた。今学んでいることをどう役立てることができるか、役立てたいかを意識しながら学ぶことが、積極的な学びにつながっていく。そして、自分のためはもちろん、誰かのために自分の学びが必要とされていることを忘れずに、今の学びを大切にしてほしい。

ソフトボール 3年1組
サッカー 3年1組
バレーボール 3年2組



クラスマッチで見たエネルギーをばねに頑張るほしい。また、クラスマッチの運営に尽力してくれた生徒会役員や、競技の傍ら審判や救護等を引き受けてくれた各競技の部活動の生徒にも感謝の意を述べたい。

力戦の末に、各競技優勝したクラスは左記の通りである。

チームカを実感

女子バドミントン部

沖高には16の部活動が存在する。どの部活動もそれぞれの目標を持って、毎日の練習に励み、県総体等の大会に臨んだ。その中でも、今回が県総体で団体ベスト16という成績を残した女子バドミントン部3年生の菊地朋花さん、永吉るりさん、新村安梨寿さん、藤田織菜さんの4人に話を聞いた。

4人がバドミントンを始めたきっかけは様々だ。厳しい練習に音を上げそうになった時も、先輩や後輩、顧問の先生方に支えられ、続けることができたそう。そうして少しずつ心・技・体が鍛えられ、有終の美を飾ることができたようだ。今回の団体戦の感想について聞くと、「部員も顧問の先生方もみんなが一生懸命になっていることを実感できた。勝敗ではなく、チーム力を味わえた楽しい団体戦だった」と感慨深そうに話してくれた。また、後輩たちへのメッセージとして、「地区大会3連覇、団体・ダブルス・シングルの三冠はもちろん、全

8月以降も部活動の大会は続いていく。部活動生一人ひとりが、仲間と心を一つにして力を尽くし、大会を楽しんでほしい。

